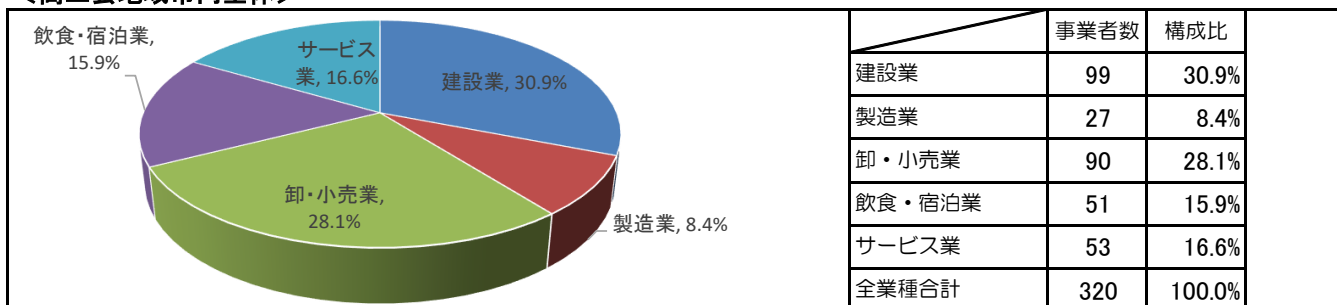


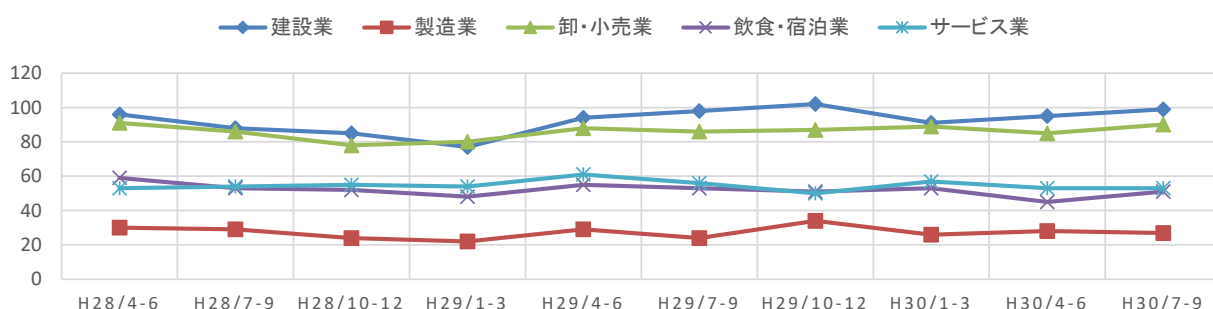
小規模事業者以外含む全事業所

◇ 調査対象事業所構成割合

<商工会地域市内全体>



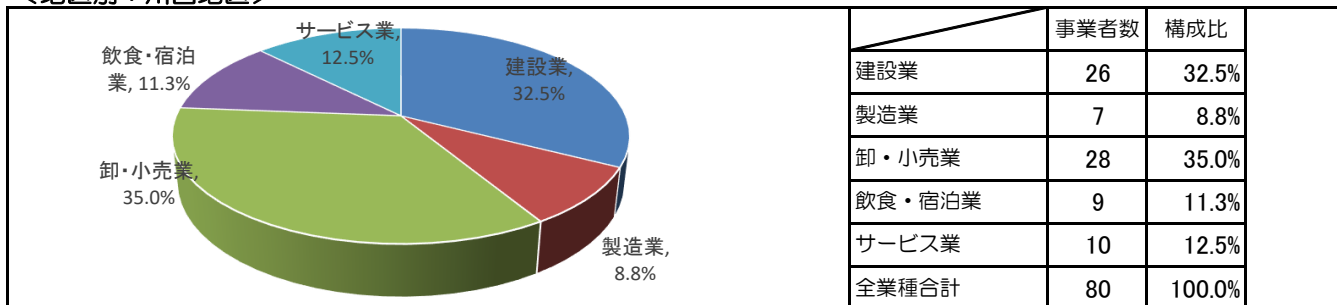
業種別調査事業所数の推移（市内全体）



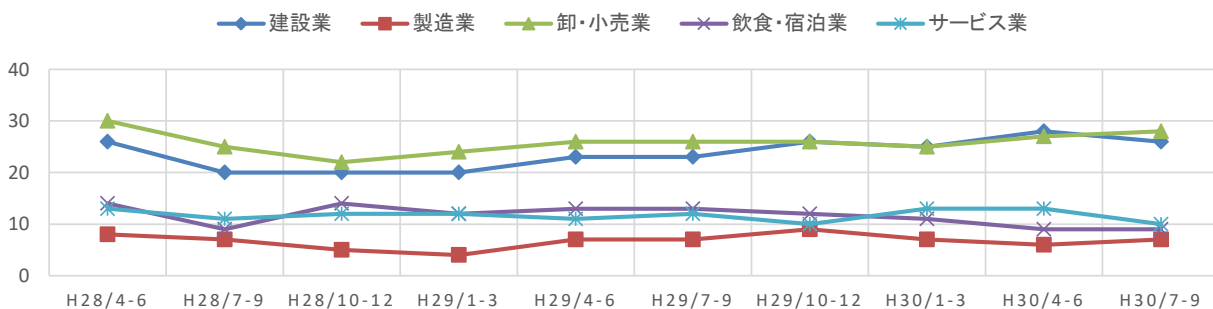
<コメント>

今回の調査も十日町市内商工会地域全体の約3割の事業者より回答を得た。前回調査よりも14事業所多くの回答があり、構成割合も前回と大きな変動の無い結果となっている。

<地区別：川西地区>



業種別調査事業所数の推移（地区）



<コメント>

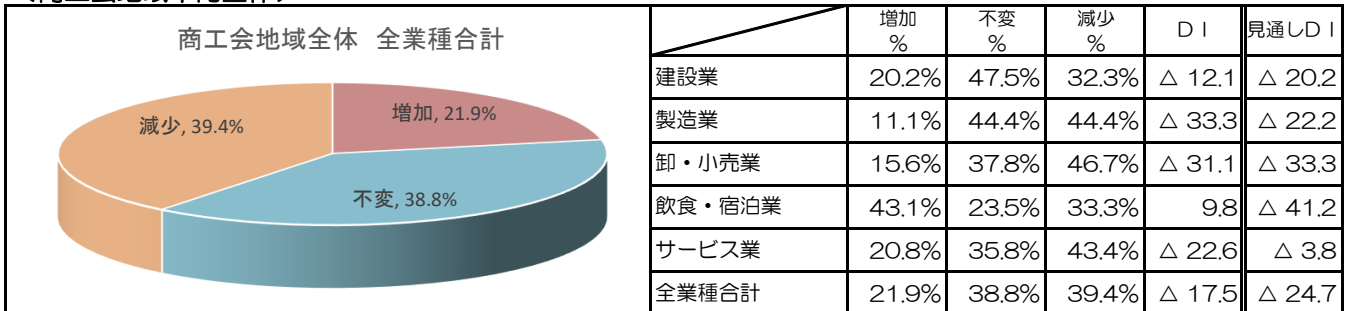
川西地区の業種割合は商工業者100社を対象に調査依頼をし、80社(回収率80%)からの回答を基にした集計結果である。製造業の割合が少ないものの、これまでの調査対象事業所数と同様の数値である。

D I 値（景況判断指数）＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

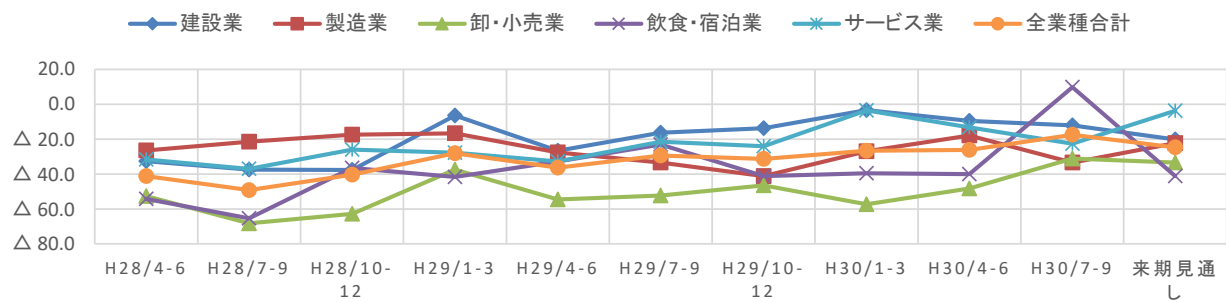
1. 売上について

・7月～9月の売上は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



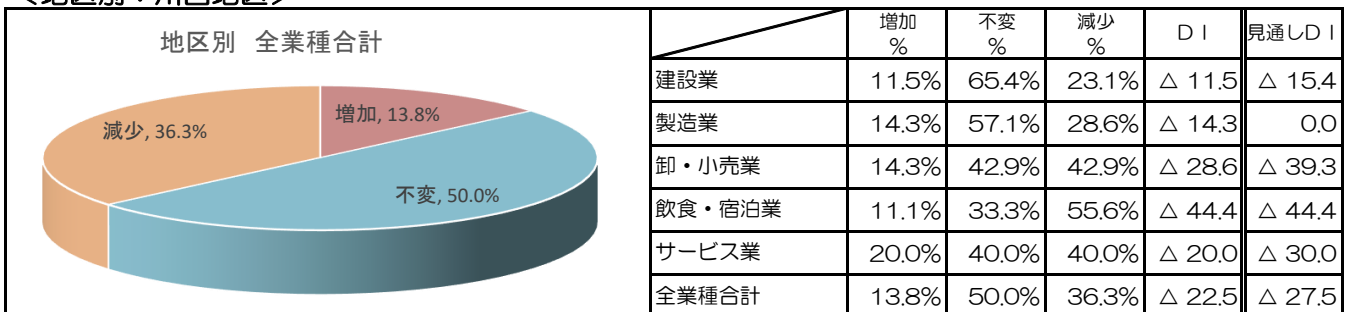
業種別売上の推移(市内全体)



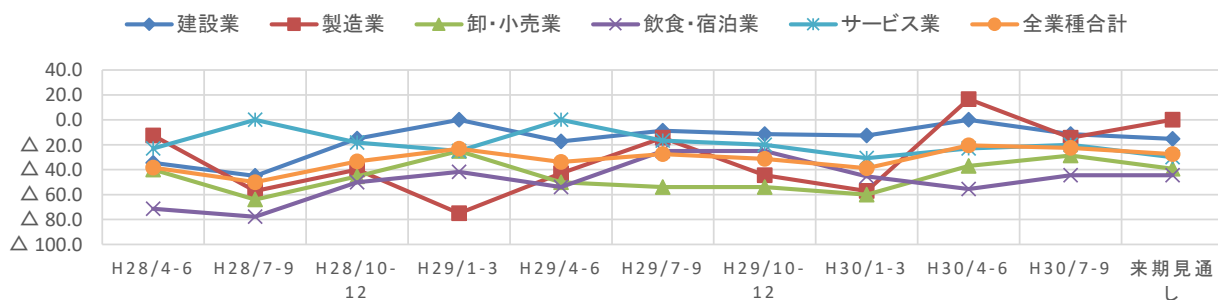
<コメント>

今期の市内全体の売上状況である。全業種で前回調査時よりもDI値で8.6ポイントの改善が見られた。内容は、推移グラフで分かる通り、飲食・宿泊業のDI値で大きな改善が見られ、これは大地の芸術祭効果があったものと思われる。その他の業種では卸・小売業のDI値も前回は17.1ポイント改善されているが、建設業、製造業、サービス業では減少している。来期見通しでは、飲食・宿泊業で大きな減少が予測されており、業種全体でも7.2ポイント減少予想となっている。

<地区別：川西地区>



業種別売上の推移(地区別)



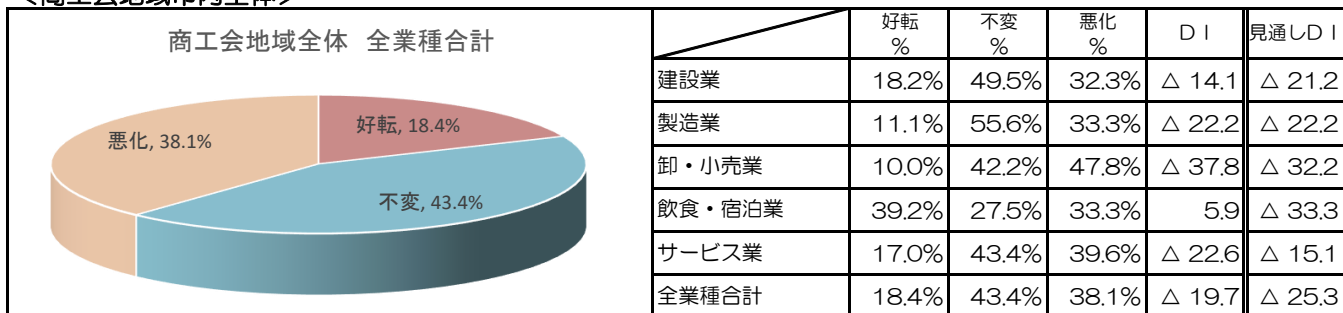
<コメント>

川西地域の売上は業種全体で前年同期と比較して△22.5ポイントの減少となっている。全業種において悪化を示しているが、特に飲食・宿泊業の減少が目立っている。来期見通しでは全業種で△5.0ポイントの悪化を予想している。

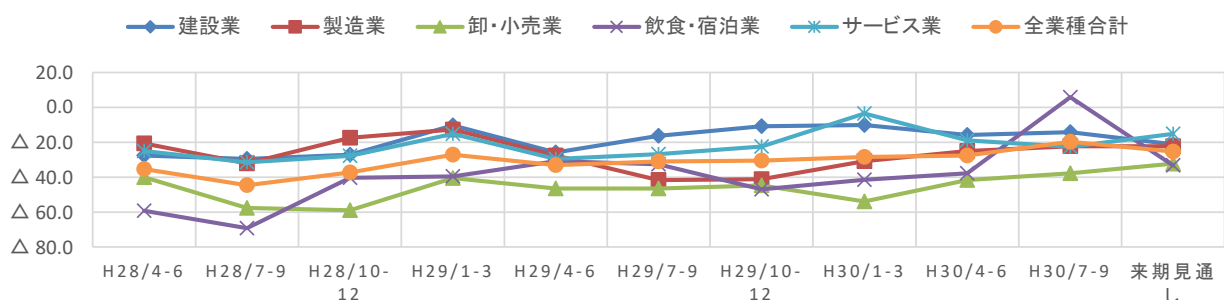
2. 採算について

- ・7月～9月の採算は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



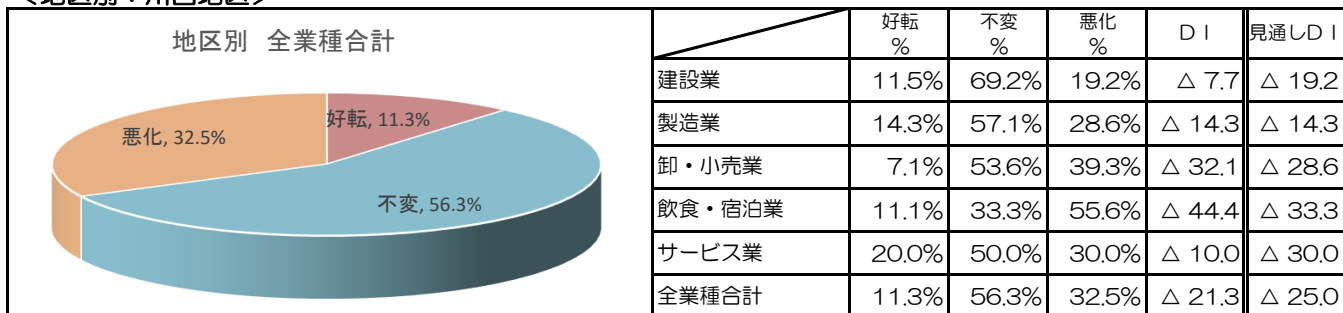
業種別採算の推移(市内全体)



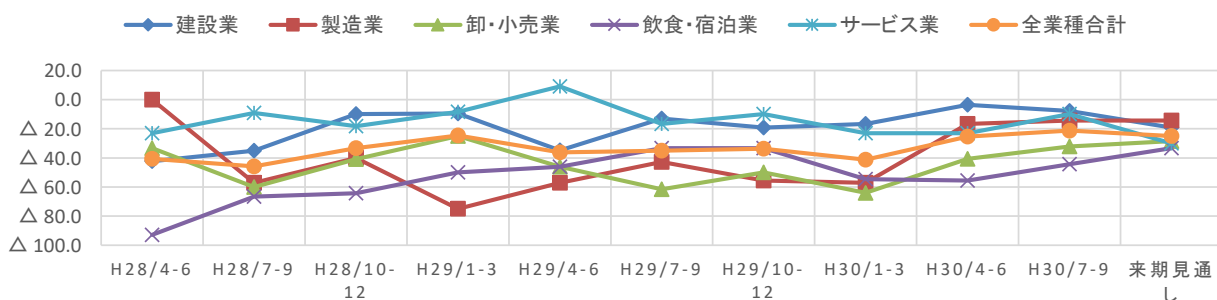
<コメント>

市内全体の採算の状況は売上高と同様で、飲食・宿泊業のDI値が大幅な改善となっている。サービス業のみ前回比で悪化となっているが、その他の業種では好転となっており、全業種のDI値も前回調査比で7.8ポイント改善されている。ただし、来期見通しにおいては飲食・宿泊業の悪化予測幅が大きく、全業種でも5.6ポイント悪化予測となっている。

<地区別：川西地区>



業種別採算の推移(地区別)



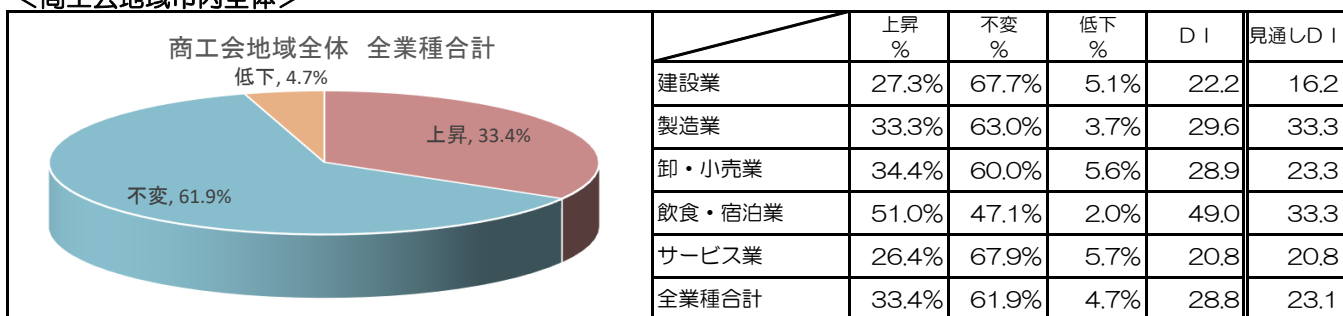
<コメント>

川西地域の採算性は前年同期と比較して△21.3ポイントの悪化となっている。これまで同様、飲食・宿泊業の悪化が顕著である。来期見通しでは全業種で△3.7ポイントの悪化を予想している。

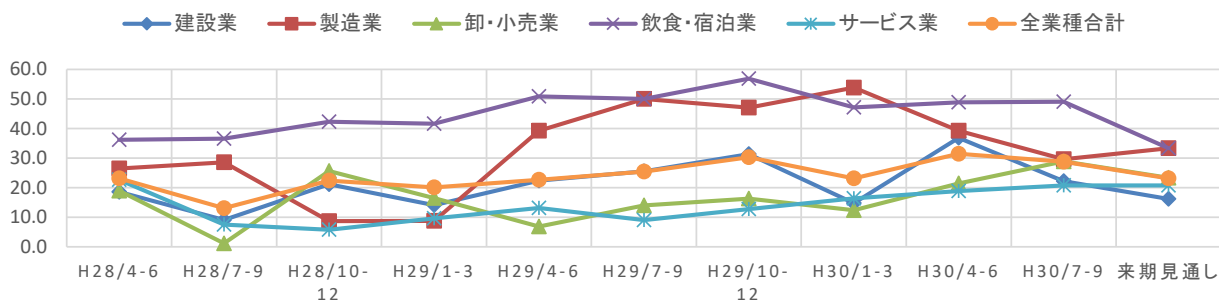
3. 仕入単価について

- 7月～9月の仕入単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



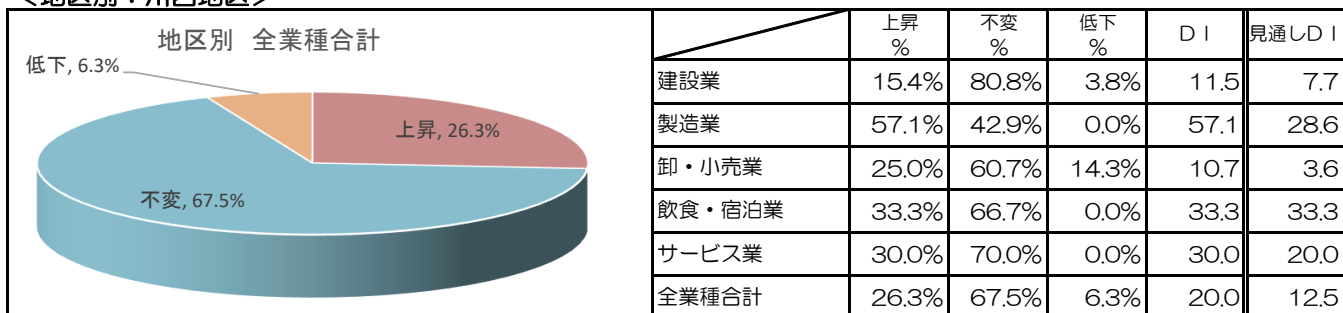
業種別仕入単価の推移(市内全体)



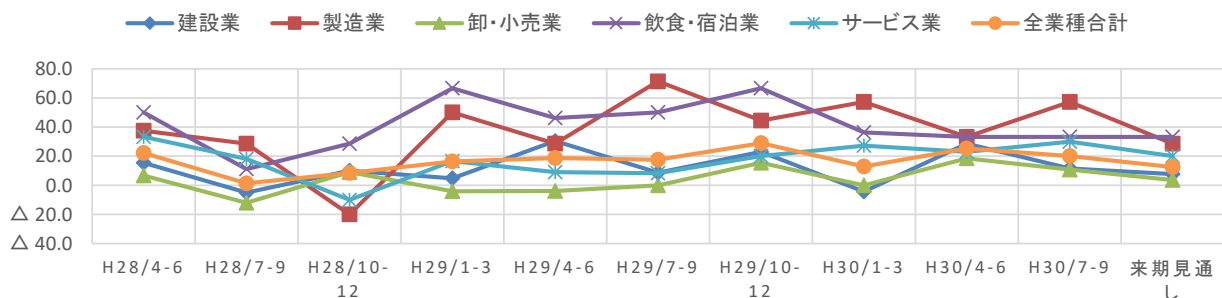
<コメント>

今期の市内全体の仕入単価の状況は、D I 値で建設業が14.6ポイント、製造業が9.7ポイントの低下となり、飲食・宿泊業とサービス業でほぼ横這い、卸・小売業で7.5ポイント上昇がみられたが、全業種での前回調査比で2.7ポイント低下との結果であった。来期見通しにおいても製造業を除き低下予想している業種が多く、改善見込みを示している。

<地区別：川西地区>



業種別仕入単価の推移(地区別)



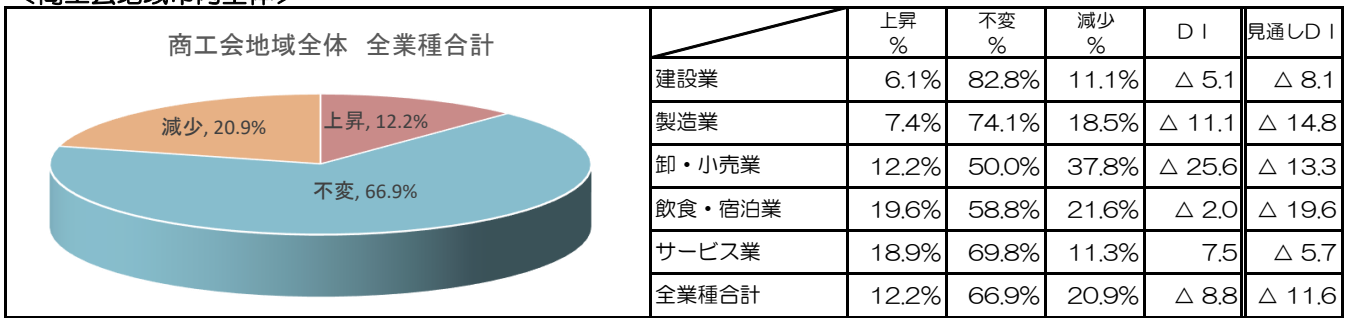
<コメント>

川西地域の仕入単価は前年同期と比較して20.0ポイントの上昇を示し、その中でも製造業が他業種よりも上昇傾向にある。来期見通しは全業種で7.5ポイントの改善が見込まれている。

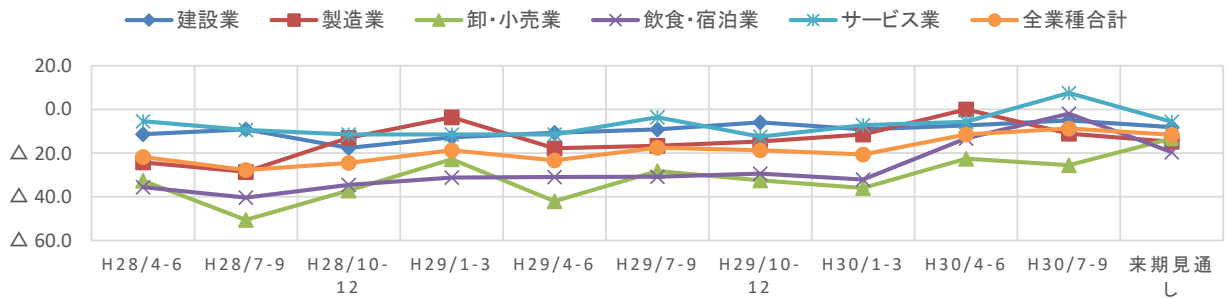
4. 販売（客）単価について

・7月～9月の販売（客）単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



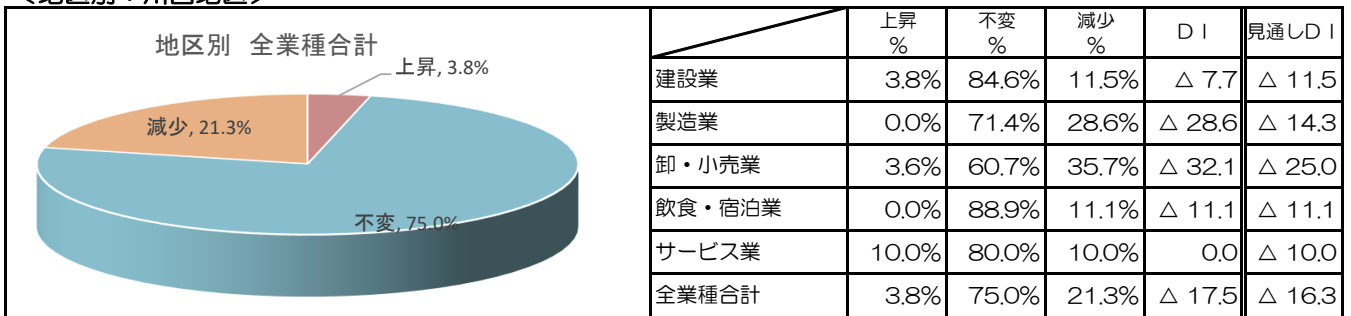
業種別販売（客）単価の推移（市内全体）



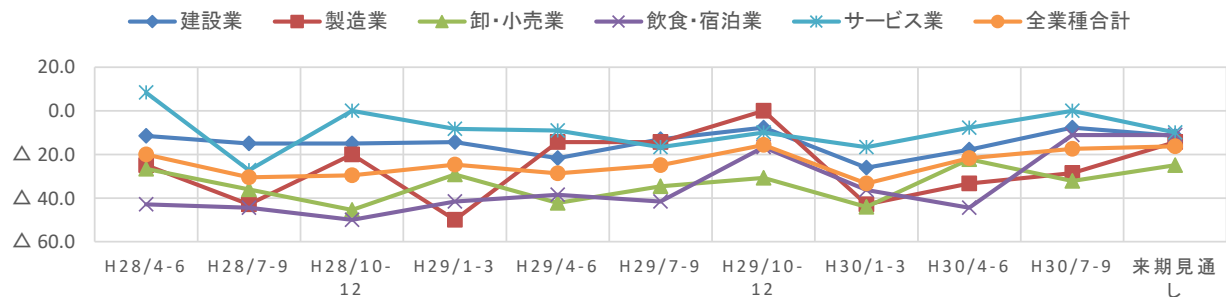
<コメント>

市内全体の販売（客）単価は、全業種D Iで2.7ポイント上昇した。業種別では製造業、卸・小売業で減少となっているが、飲食・宿泊業及びサービス業での上昇幅が大きく、全体を底上げしている。注視したいのは、全業種の推移であるが、多少の増減はあるものの微増傾向にあるところである。しかし、来期見通しでは減少予測されている部分もあり、今後の動向も注意しなければならない。

<地区別：川西地区>



業種別販売（客）単価の推移（地区別）



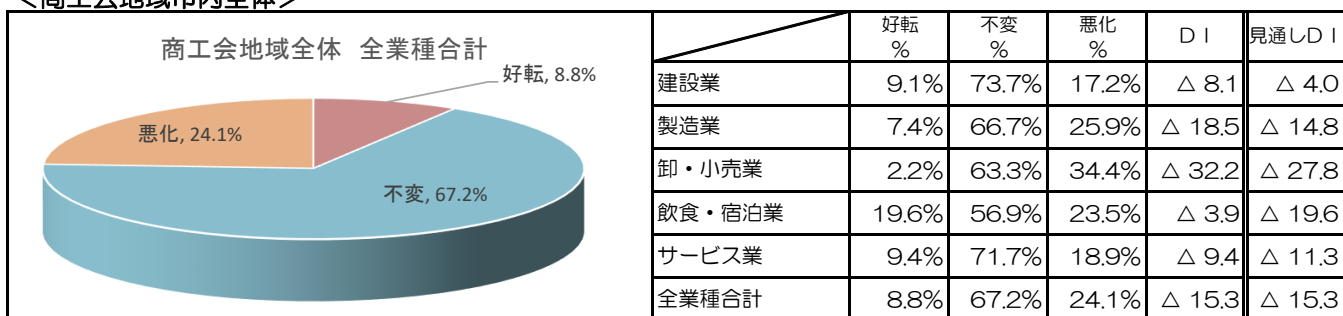
<コメント>

川西地域の販売単価は前年同期と比較して△17.5ポイントの低下となっており、製造業、卸・小売業での悪化が顕著であるが、サービス業では不変を示している。来期見通しでは全業種で1.2ポイントの回復を予想している。

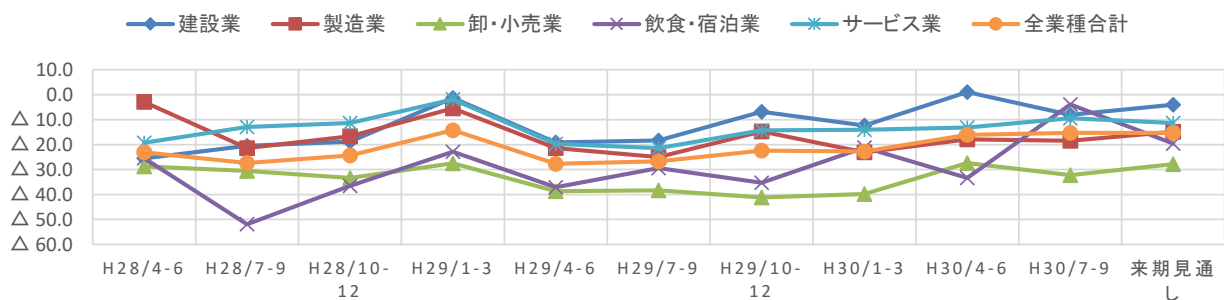
5. 資金繰りについて

- ・7月～9月の資金繰りは前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



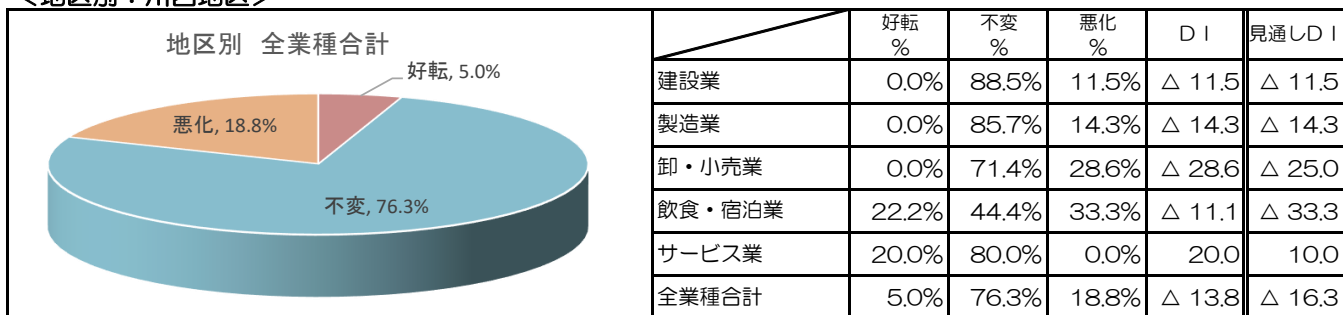
業種別資金繰りの推移(市内全体)



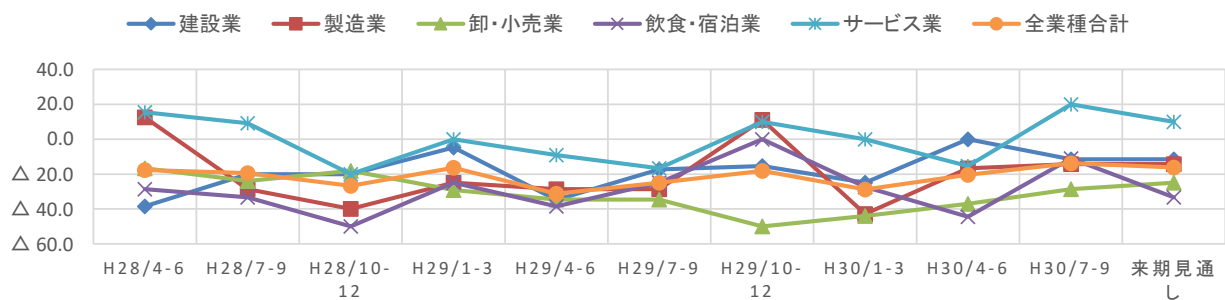
<コメント>

市内全体の資金繰り状況は、前期調査にて唯一悪化となっていた飲食・宿泊業が大きな改善を見せている。建設業で10.5ポイント、卸・小売業で4.8ポイントの悪化となっているが、全業種では0.8ポイント好転している。来期見通しでは飲食・宿泊業で悪化予測されているものの、業種全体では今回と同ポイントとなっている。

<地区別：川西地区>



業種別資金繰りの推移(地区別)



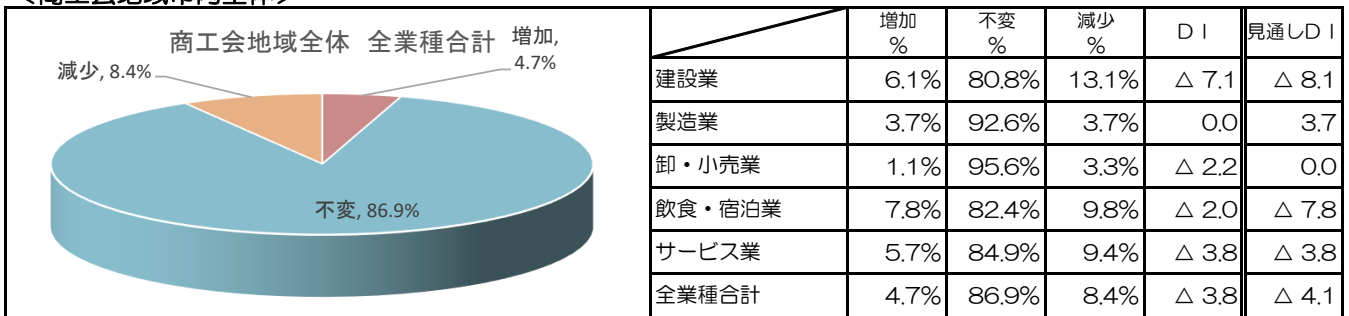
<コメント>

川西地域の資金繰りは全業種で△13.8ポイントの悪化であるが、サービス業のみ20.0ポイントの改善を示している。来期見通しは全体的に△2.5ポイントの悪化を見込む中、卸・小売業が唯一改善を示している。

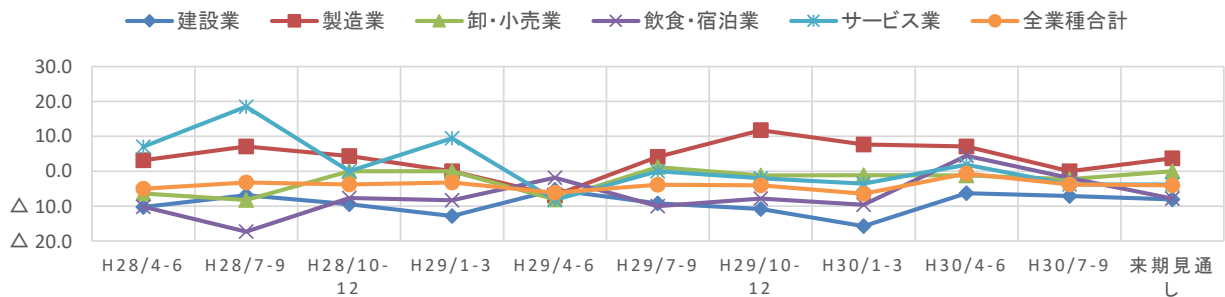
6. 従業員数について

- ・7月～9月の従業員数は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



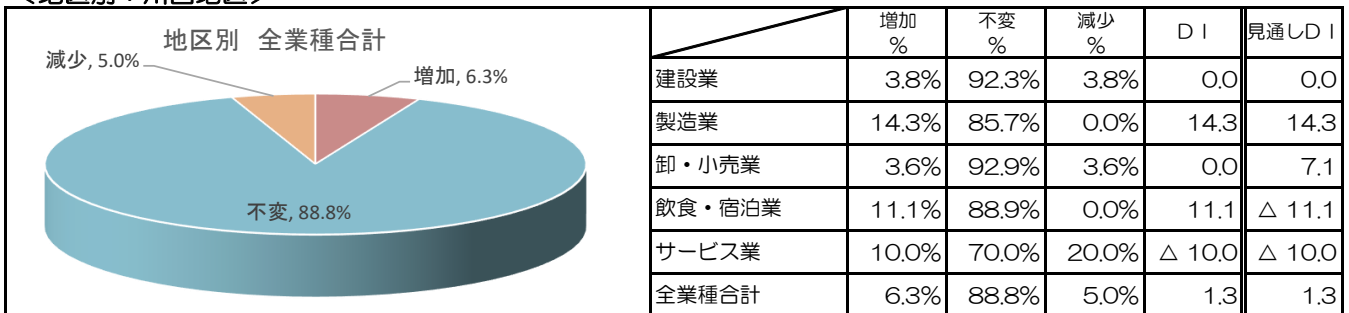
業種別従業員数の推移(市内全体)



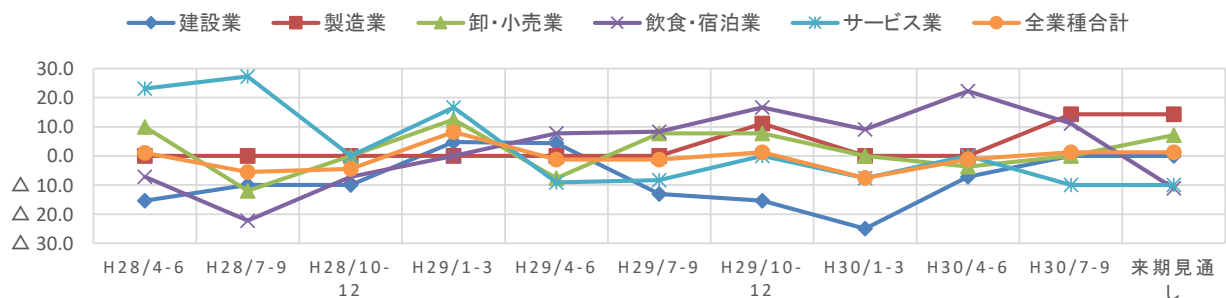
<コメント>

市内全体の従業員数は、全ての業種で減少となっており、D I 値で前回調査比△3.1ポイントであった。この結果を会員との会話から推測すると、実際の雇用減（解雇）等ではなく、求人を出していても求職者がいないのではないかとと思われる。（人手不足の状況）来期見通しても今期と0.3ポイントしか変わらず、同じような状況が続くと予測されている。

<地区別：川西地区>



業種別従業員数の推移(地区別)



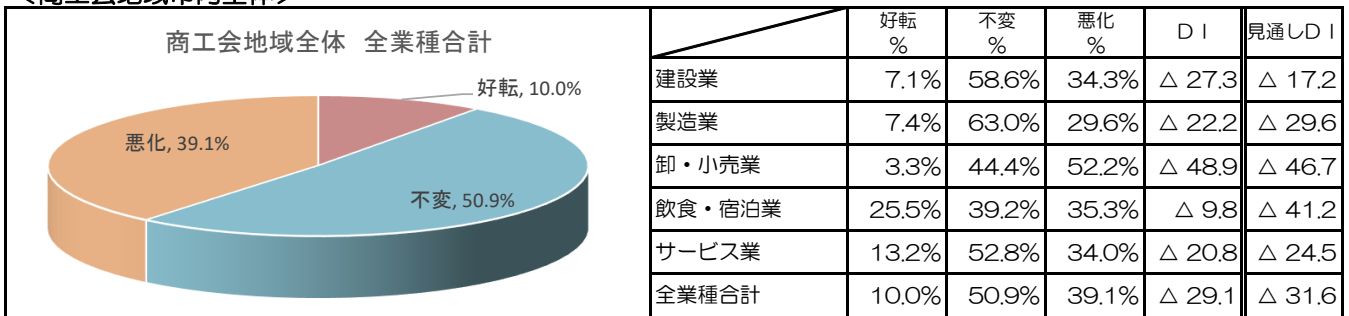
<コメント>

川西地域の従業員数は1.3ポイントの上昇であり、製造業、飲食・宿泊業において従業員数が上昇している。全業種から見た来期見通しとしては今期と同様であると見込まれている。

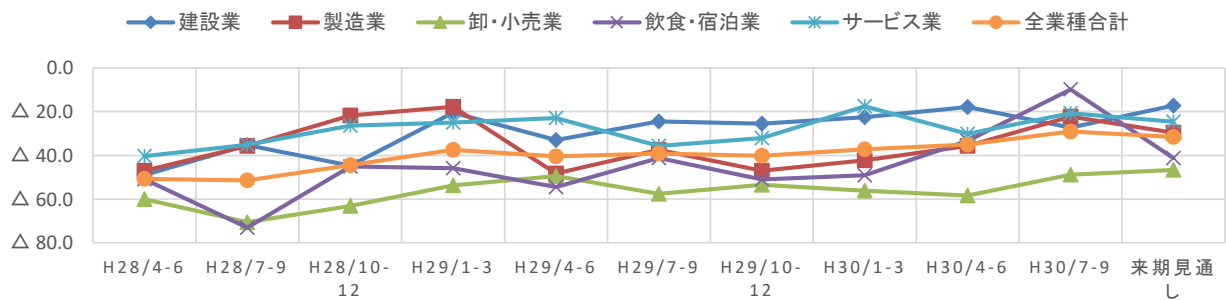
7. 景況判断について

- ・7月～9月の景況は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



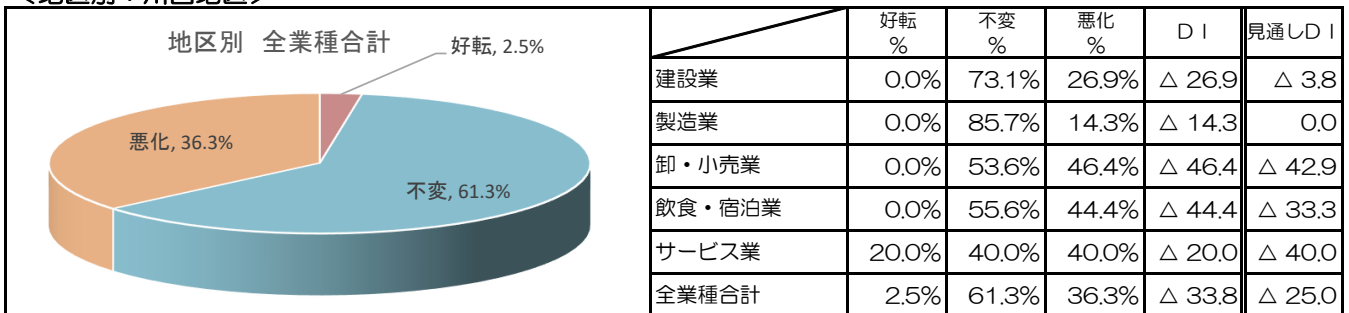
業種別景況判断の推移(市内全体)



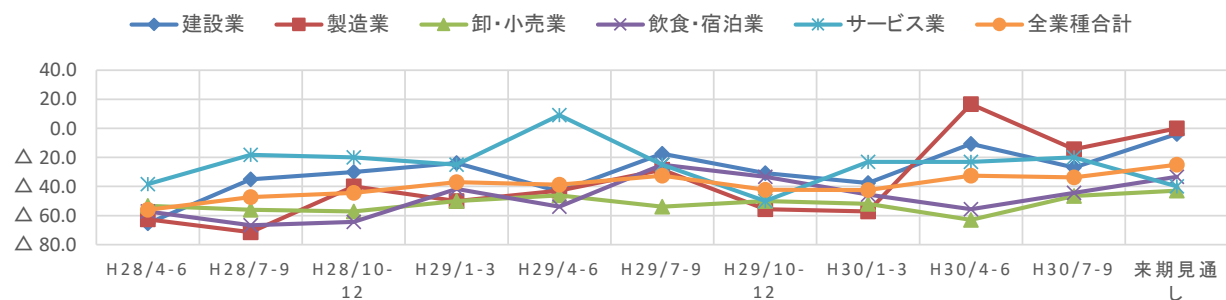
<コメント>

市内全体の景況判断は、建設業で9.4ポイント悪化となっているが、その他の業種では好転を示しており、全業種D I値で6.0ポイント改善している。前回調査時でも述べているが、全業種での推移は微増傾向にあり、今後もこの傾向に期待したいところであるが来期予測では若干の悪化予測となっている。次回調査にて実際の数値に注視したいところである。

<地区別：川西地区>



業種別景況判断の推移(地区別)

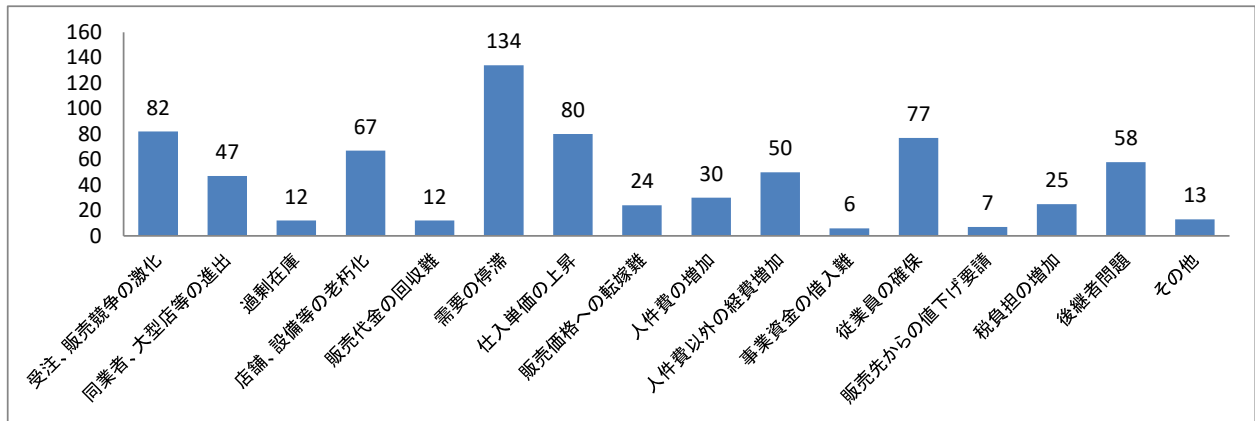


<コメント>

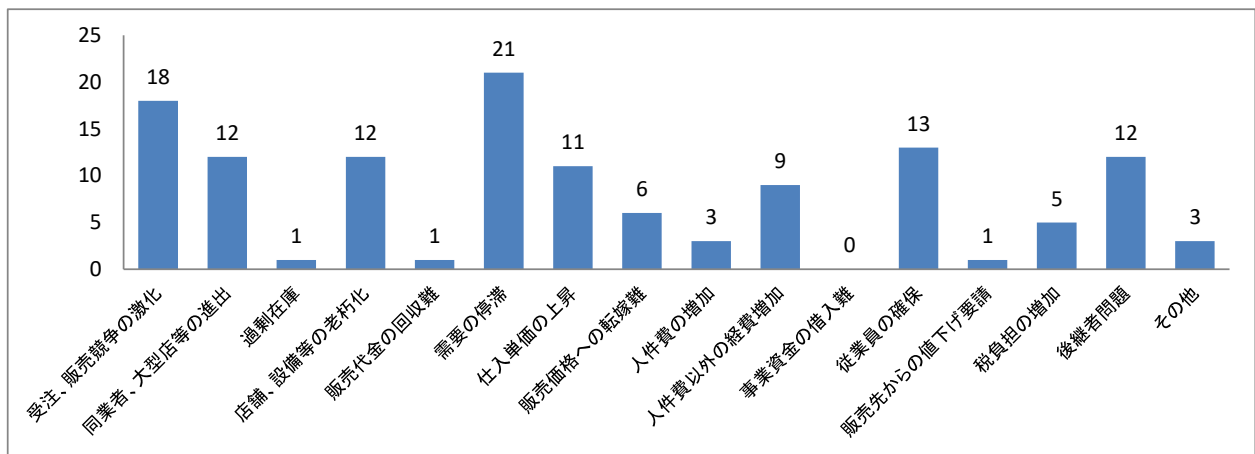
川西地域の景況判断としては全業種で△33.8ポイントの悪化を示しており、全業種で悪化を示している。全業種から見た来期見通しとしては8.8ポイントの回復が見込まれている。製造業においては今期と不変との見方をしている。

8. 経営上の問題点（上位3つ）

商工会地域全体 全業種合計



地域別 全業種合計



<コメント>

今回調査での市内全体の経営上の問題点は、前回調査時と上位3位までの内容は変わっていないが「需要の停滞」が1位、2位「受注、販売競争の激化」3位「仕入単価の上昇」であった。4位も前回同様「従業員の確保」があげられており、業種を問わず人材不足の状況が進んでいるものと推測される。

9. 地区の景況概要

・7月～9月時点での全体概況は

【建設業】

建設業においては全体的に悪化しているとの回答が多い中、「従業員数」については前年同期と不変といった回答が多かった。また、経営上の問題点としては1位「需要の停滞」2位「受注、販売競争の激化」、「店舗、設備等の老朽化」、「従業員の確保」3位「人件費以外の経費増加」となっており、商圈地域内での「需要の停滞」を感じる事業所が増加している傾向にある。

【製造業】

製造業においては「仕入単価」「販売単価」において悪化との回答が多いが、建設業同様「従業員数」に関しては改善を示している。経営上の問題点としては「需要の停滞」、「仕入単価の上昇」、「後継者問題」を多くの事業所が挙げている。前回1位であった「人件費以外の経費増加」の割合が少なくなったものの、「仕入単価の上昇」及び「後継者問題」に注目している事業所が増えている傾向にある。

【卸・小売業】

卸・小売業においては全体的に悪化が顕著であり、特に「景況判断」では飲食・宿泊業同様に全業種内で大きな悪化を示している。経営上の問題点としては1位「受注、販売競争の激化」2位「需要の停滞」3位「同業者、大型店等の進出」であり、前期と同様に需要停滞の中で競合他社の動向をマークする事業所が増加していることが伺える。

【飲食・宿泊業】

飲食・宿泊業においては「売上」、「採算」、「仕入単価」、「景況判断」において大きな悪化傾向を示している。経営上の課題については1位「仕入単価の上昇」2位「店舗、設備の老朽化」「従業員の確保」となっており、「仕入単価の上昇」及び「店舗、設備の老朽化」は前回も課題に挙がっているが、新たに「従業員の確保」を課題と挙げる事業所も増えている。

【サービス業】

サービス業においても全体的に悪化との回答が多く、「従業員数」では全業種の中で唯一悪化を示しているが、反対に「資金繰り」においては全業種の中で唯一20.0ポイントの改善となっている。経営上の課題については1位「需要の停滞」「従業員の確保」2位「店舗設備の老朽化」となっており、前回同様に「需要の停滞」への対策や「従業員の確保」を課題として捉える事業所が増加傾向にある。